

ヘパリン Ca 皮下注 1 万単位/0.4mL 「サワイ」

【この薬は？】

販売名	ヘパリン Ca 皮下注 1 万単位/0.4mL 「サワイ」 Heparin Ca s.c. injection 10,000units/0.4mL 「SAWAI」
一般名	ヘパリンカルシウム Heparin Calcium
含有量 (1バイアル中)	10,000 ヘパリン単位

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、血液凝固阻止剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、血液を固まらせる働きを抑え、血液が固まりやすくなっている状態を改善し、血管内で血液が固まって生じる疾患（血栓塞栓症）を治療または予防します。
- ・次の目的で処方されます。

汎発性血管内血液凝固症候群の治療

血栓塞栓症（静脈血栓症、心筋梗塞症、肺塞栓症、脳塞栓症、四肢動脈血栓塞栓症、手術中・術後の血栓塞栓症等）の治療及び予防

- ・この薬は、医療機関において、適切な在宅自己注射教育を受けた患者さんまたは家族の方は、自己注射できます。自己判断で使用を中止したり、量を加減したりせず、医師の指示に従ってください。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、原則として、この薬を使用することはできません。

- ・出血している人
- ・出血する可能性のある人
- ・肝臓に重篤な障害のある人
- ・腎臓に重篤な障害のある人
- ・中枢神経系の手術または外傷後日の浅い人
- ・過去にヘパリン Ca 皮下注「サワイ」に含まれる成分で過敏な反応を経験したことがある人
- ・過去にヘパリン起因性血小板減少症（HIT）※を経験したことがある人

※ヘパリン起因性血小板減少症（HIT）：

呼吸困難、意識障害、けいれん、片側のまひ、手足のまひ、しびれ、四肢のはれ・疼痛・皮膚の色調の変化、注射部位が赤くなってきた、押すと痛いしこりができるなどの症状。

○この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

〔自己注射する場合〕

- ・この薬の使用法や使用済みの注射器と注射針の安全な廃棄方法など、次のことについて十分に理解できるまで説明を受けてください。
 - ①患者さん自身または家族の方が注射をした時に副作用と思われる症状があらわれた場合や、注射を続けられないと感じた場合には、使用を中止し、直ちに医師または薬剤師に相談すること。
 - ②使用済みの注射針あるいは注射器を再使用しないこと。
 - ③すべての使用済み器具の安全な廃棄方法について説明を受けること。
 - ④自己注射を行う前に、この薬の「在宅自己注射説明書」を必ず読むこと。

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

〔自己注射する場合〕

●使用量および回数

使用量、使用回数は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

●どのように使用するか？

- ・使用方法については、末尾の「【別紙】使用方法について」を参照してください。
- ・バイアル開封後の使用は一回限りとしてください。
- ・残液や使用済みの針および注射器は、再使用せず、廃棄用専用容器（ない場合はビンや缶などの固い容器）に入れて、子供の手の届かないところに保管してください。

●使用し忘れた場合の対応

決して2回分を一度に注射しないでください。注射を忘れた場合は、医師に連絡して指示を受けてください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

異常を感じたら、医師または薬剤師に相談してください。

〔医療機関で使用される場合〕

使用量、使用回数、使用方法等は、あなたの症状などにあわせて、医師が決め、医療機関において注射されます。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬を使用する場合は、血液検査などが行われます。
- ・この薬は、急に使用を中止した場合に、血栓があらわれることがあります。この薬の使用を中止する場合は、時間をかけて、少しずつ量を減らしていきます。医師の指示どおりに使用してください。
- ・この薬の使用によりヘパリン起因性血小板減少症（HIT）がおこることがあるため、血液検査で血小板数などの確認が行われます。また、**副作用は？**に書かれているような血小板数の著しい減少や血栓症を疑わせる症状（呼吸困難、意識障害、けいれん、片側のまひ、手足のまひ、しびれ、四肢のはれ・疼痛・皮膚の色調の変化、注射部位が赤くなってきた、押すと痛いしこりができるなど）があらわれた場合には使用を中止し、医師または薬剤師に相談してください。使用終了の数週間後に HIT がおこったという報告もあるため、使用終了後も上記の症状に気をつけてください。
- ・歯の治療を受ける場合、他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。


重大な副作用	主な自覚症状
ショック	冷や汗、めまい、意識がうすれる、考えがまとまらない、血の気が引く、息切れ、判断力の低下
アナフィラキシー	からだのだるい、ふらつき、意識の低下、考えがまとまらない、ほてり、眼と口唇のまわりのはれ、しゃがれ声、息苦しい、息切れ、動悸（どうき）、じんましん、判断力の低下
出血 しゅっけつ	意識障害、頭痛、しゃべりにくい、吐き気、嘔吐（おうと）、片側のまひ、手足のまひ、しびれ、半身不随、血を吐く、腹痛、血が混ざった便、黒色便、血の混じった痰、血圧低下、手術部位からの出血、注射部位からの出血
血小板減少 けっしょうばんげんしょう	鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、皮下出血、出血が止まりにくい

重大な副作用	主な自覚症状
HIT 等に伴う血小板減少・血栓症 エイチアイティーとうにともなうけっしょうばんげんしょう・けっせんしょう	呼吸困難、意識障害、けいれん、片側のまひ、手足のまひ、しびれ、四肢のはれ・疼痛・皮膚の色調の変化、注射部位が赤くなってきた、押すと痛いしこりができてきた

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷や汗、からだがだるい、ふらつき、片側のまひ、けいれん
頭部	めまい、意識がうすれる、考えがまとまらない、意識の低下、意識障害、頭痛
顔面	血の気が引く、ほてり、鼻血
眼	眼と口唇のまわりのはれ
口や喉	しゃがれ声、眼と口唇のまわりのはれ、しゃべりにくい、吐き気、嘔吐、血を吐く、血の混じった痰、歯ぐきの出血
胸部	息切れ、息苦しい、動悸、吐き気、呼吸困難
腹部	吐き気、腹痛
手・足	手足のまひ、しびれ、半身不随、片側のまひ、四肢のはれ・疼痛・皮膚の色調の変化
皮膚	じんましん、あおあざができる、皮下出血、四肢のはれ・疼痛・皮膚の色調の変化、注射部位が赤くなってきた、押すと痛いしこりができてきた
便	血が混ざった便、黒色便
その他	判断力の低下、意識障害、血圧低下、手術部位からの出血、注射部位からの出血、出血が止まりにくい、注射部位が赤くなってきた、押すと痛いしこりができてきた

【この薬の形は？】

性状	無色～淡黄色澄明な注射液 バイアル製剤
形状	

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	ヘパリンカルシウム
添加物	水酸化カルシウム、塩酸

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・光と湿気をさけて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かない所に保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

●この薬の廃棄方法は？

- ・使用済みの針および注射器については、医療機関の指示どおりに廃棄してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：沢井製薬株式会社 (<http://www.sawai.co.jp>)

お客様相談室

電話番号：0120-373-381

受付時間：9時～17時

（土、日、祝日、その他当社休業日を除く）

【別紙】使用方法について

自己注射をはじめる前に

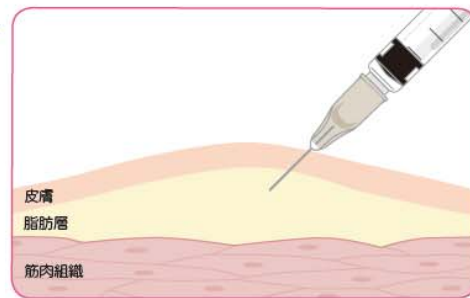
◎ 自己注射を実施するにあたっての留意事項

在宅自己注射を実施するにあたっては、以下の事項を必ず守ってください。

1. お薬を規定の方法で管理すること。
2. 決められた方法で注射すること。注射し忘れた際、決して2回分を1度に注射しないこと。
3. 定期的に受診すること。
4. 治療経過などの記録を提出し、評価と指導を受けること。
5. 異常を感じた場合や不明な点は担当医に連絡し指示を仰ぐこと。
6. 注射針や注射器などの在宅医療廃棄物は、病院へ持参し担当医等の指示に基づき、適切に処理すること。
7. 注射剤は1回使用した残りの分を再使用しないこと。毎回、新しい注射剤で注射すること。

◎ 皮下注射について

皮下注射とは、皮膚と筋肉組織の間にある脂肪層に行う注射のことをいいます。



◎ 注射部位

皮下注射に適している部位は、大腿部（太もも）、腹部などです。ご家族の方に注射してもらう場合には、上腕部、臀部などにも注射できます。

- ・注射部位は毎回変えてください。同じ部位に注射する場合は、2～3cmずらすなど前回とは離れた部位に注射してください。
- ・皮膚が赤くなっていたり、傷があったり、硬くなっている部位への注射は避けてください。
- ・へそ、ウエストライン、太ももの内側への注射は避けてください。



詳しい注射部位は、担当医の指示にしたがってください。

○ 準備するものの名称と確認のポイント

● ヘパリンCa皮下注1万単位/0.4mL「サワイ」

- ・バイアルが破損していないこと、薬液が澄明で異物がないことを確認してください。
- ・使用期限を過ぎたものは使用しないでください。



● シリンジ、注射針



- ・針の長さや太さは、患者さんの体格などによって異なります。
- ・注射針付きのシリンジを用いる場合もあります。
- ・使用直前まで開封しないでください。

● アルコール綿



● 廃棄用容器



- ・廃棄用専用容器のほか、ビンや缶などの固い容器を用いることもできます。

● 自己注射日誌

自己注射日誌に注射日時、注射部位や体調の変化などを毎回記入し、次の受診日に担当医にご提示ください。



注射の準備

① 両手を石鹸で洗う

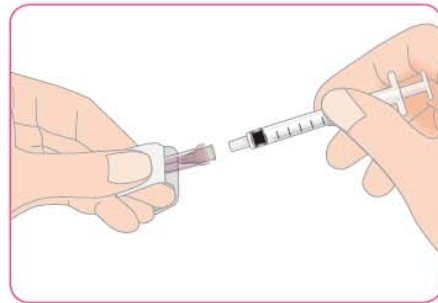
注射に必要なものを準備したら、両手を石鹸でよく洗います。
指と指の間、指先と爪の間もよく洗ってください。

② シリンジに注射針を取り付ける

※注射針付きシリンジの場合は不要です。

シリンジ、注射針を開封し、シリンジに注射針をしっかり取り付けます。

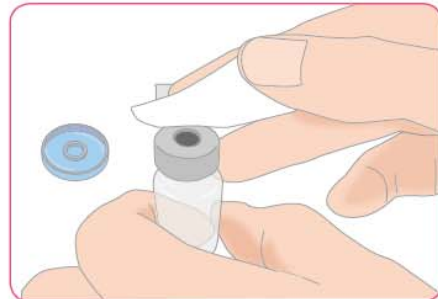
シリンジの先端、注射針の接続部位に
触れないように気をつけてください。



③ バイアルのキャップを外してゴム栓を消毒する

親指の腹でキャップを外して、ゴム栓をアルコール綿で拭いて消毒します。

消毒したゴム栓には手を触れないよう
気をつけてください。



④ 注射針をゴム栓に刺す

注射針のキャップを外し、プランジャーを引いて必要な薬液と同量の空気を入れておきます。バイアルのゴム栓中央に垂直に注射針を刺し、プランジャーを押してバイアル内に空気を入れます。



⑤ 薬液を吸い取る

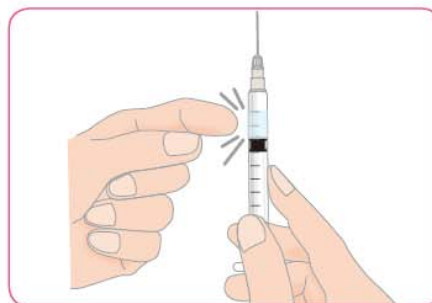
注射針を刺したままバイアルをさかさまにして、薬液をシリンジにゆっくり吸い取り、その後バイアルから針を静かに抜きます。

この時、必要な量より少し多めに取ります。



⑥ シリンジの上部に気泡(空気)を集める

プランジャーを少し引き、シリンジを軽く指ではじいて薬液中の気泡をシリンジの上まで移動させます。



⑦ 決められた用量にあわせる

医師に決められた用量になるまでゆっくり押し上げ、針先まで薬液を満たします。

開封後の使用は1回限りとし、薬液が余っていても再使用はしないでください。

容量と単位数

容量	単位数
0.1mL	2,500単位
0.2mL	5,000単位
0.3mL	7,500単位
0.4mL	10,000単位

注射の手順

① 注射部位を消毒する

注射部位をアルコール綿で拭いて消毒し、十分に乾燥させます。注射するまで消毒した部位には触れないようにしてください。



② 針を刺す

片方の手で注射部位を軽くつまみ、つまみあげた皮膚の真ん中に少し斜めに針を刺します。

血管が見えている部位は避けて注射してください。注射針を刺した時に激痛を感じたり、血液が逆流した場合、すぐに針を抜き、部位を変えて注射してください。



③ 注射液を注入する

プランジャーをゆっくり最後まで押しきって、薬液を注入します。

プランジャーをわずかに引いて、血液の逆流が見られないことを確認してから薬液を注入してください。



④ 針を抜いて、注射部位を消毒する

注入し終わったら、ゆっくり注射針を引き抜きます。注射した場所を新しいアルコール綿で軽く押さえます。

注射したあとで、注射した場所を揉まないようにしてください。注射部位があとから痛くなったり、赤くなったり、硬くなったりした場合は、担当医に連絡してください。



⑤ 注射器および注射針の廃棄

使い終わった注射器と注射針は、医療機関の指示にしたがって、廃棄用容器等に廃棄してください。

全て終了したら、もう一度両手をよく洗います。

一度使った注射器と注射針は、絶対に再使用しないでください。



⑥ 自己注射日誌の記載

自己注射を行ったら、自己注射日誌に記載しましょう。